

基 調 講 演

テーマ：市民生活を支える「工学」

～科学技術の暮らしへの還元 山口大学の取り組み～

講 師：山口大学大学院 教授 清 水 則 一



略 歴

昭和 56 年 神戸大学大学院工学研究科 土木工学専攻 修了 同年 神戸大学助手
平成 4 年 山口大学工学部 助教授（社会建設工学科）
同 12 年 山口大学 教授
同 15～18 年 山口大学地域共同研究開発センター長
同 16～18 年 山口大学産学公連携・創業支援機構副機構長
同 19～ 山口大学大学院理工学研究科社会建設工学専攻長

研究活動

- ・ 研究テーマ
トンネル建設の情報化施工，先端計測システム開発と斜面の安全監視，地下空間デザイン
- ・ 学会・社会活動
土木学会岩盤力学委員会副委員長，リニアコライダー土木技術研究委員会委員長
国土交通省中国地方整備局総合評価審査委員会山口県部会長，山口県教育委員
- ・ 受賞
土木学会論文賞奨励賞受賞（昭和 63 年度），岩の力学連合会論文賞（平成 17 年度）
山口県科学技術振興奨励賞（平成 18 年度）

講演内容

大学の使命は教育と研究です。大学で学んで卒業した人たちが社会に出て活躍されることは教育の成果のひとつです。研究についてはどうでしょうか？学術的な発見や新しい技術開発が成果であることには違いありませんが，最近ではもっとわかりやすく，社会や国民の暮らしへ還元される研究成果が望まれています。そのような背景から，平成 17 年「わが国の高等教育の将来像（答申）」において「社会貢献」は大学の第 3 の使命としてとらえていくべき時代と明記されました。

社会貢献を目指す研究の仕組みとして産学官連携活動があります。建設分野では，かつてから官学民が協力して課題に対処してきました。しかし，建設分野では，大学の研究成果を直接的にプロジェクトや実務の課題解決に使うというよりは，そのような成果を生み出した見識や経験を事業推進に役立てようとしてきたようです。いまでは，合理的な建設方法，コスト縮減，環境保全，防災事業，各種計画策定など，より直接的な成果を生み出す研究が期待されています。

山口大学では産学官連携による社会貢献に積極的に取り組んでおり，社会建設工学科もいち早く組織的な活動を進めてきました。特に，山口県と始めた官学勉強会（平成 9 年～），共同研究（平成 11 年～）は，その成果を県民の暮らしへ還元することを目的とした，自治体と大学の連携としては全国でも先駆けモデルです。講演では，山口大学の取り組みと建設分野での事例を紹介します。